(一)　第632号　昭和27年9月25日 第三種郵便物認可　THE MIIKE　【毎週日曜日発行】　昭和35年(1960)7月17日（日）

発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町2
電話3033番
7140番
編集兼発行人　北岡　隆

三池闘争

憲法違反の不当弾圧組合

当假処分絶対反対

ホッパーは守り抜く

十万の仲間が三池で大集会

「安保体制粉砕・不当弾圧反対・三池闘争を守る総評拠点大集会」は、全九州の各地および全国から十万人がホッパー下に集って七月十七日午後零時四十五分からひらかれた。日本労働運動史はじまっていらいの闘う現地三池での大集会であり、労働者の団結の力が、これはどまでに高まり、強まったことは今までにかってなかった。大集会では不当な弾圧をはね返し、安保体制打破の諸闘争の強化、三池闘争を守る共闘体制強化の意志統一をはかり、延々三時間にわたるデモをくりひろげて終了した。

南と北から三池へ

この日、早朝から列車・貸切バスで全国・九州各地から総評傘下組合員がぞくぞくと大牟田入りをしてくる。

連日の猛暑はこの日もつづき、ホッパー周辺の焼けつくような暑さの中で、十万人大集会の舞台がホッパー下にすでに設けられ、全国から三池へ贈られた寄せ書きをつづり合せた総評の巨大な寄せ旗が、舞台に張られ、労働者のたくましい団結と連帯を誇示するように、ホッパー下広場にそそり立っていた。

列車から吐き出される鉢巻、ピケ帽姿の組合員、南北から大牟田目指して何十台と隊列として繰込む貸切バスのドテッ腹には「三池頑張れ」「安保粉砕」「不当弾圧はね返せ」の横断幕がそれぞれ張られ、車窓から手を振りながら大牟田入りした。鹿児島・宮崎・大分・佐世保・山口のはるばる遠路かけつけた仲間よ苦労さま。

大会宣言

＝三池アッピール＝

今日、私たちは労働者・人民の生活と権利をまり、平和と民主主義をたたかいとる拠点、三井三池のホッパーを前に、十万名が結集して「総評九州拠点・安保体制粉砕・不当弾圧反対・三池闘争を守る大集会」をひらきました。

私たちは、独占資本が国家権力のすべてを動員して憲法をふみにじり、憎らつな弾圧と攻撃を加えてきたホッパー周辺への立入禁止という不当な仮処分に対決する重要な段階をむかえた今日、三池闘争を、全労働者・人民の力強い支援・共闘体制で守りさぎえ、勝利への前進をつづけることを誓い合いました。

さらに、この不当仮処分と呼応して、国鉄をはじめ、官公労各組合に安保闘争をめぐってだされた不当な大量処分にたいしても厳重な抗議と、全面的な撤回を要求してたたかうことをきめました。

また、人類が平和と繁栄に向つてすすむ歴史の流れに逆行する反動共の汚れた手による政権のタライ廻しと、安保体制の強化をはかる一切の政府に反対し、安保体制打破の闘争体制を確立し、強化することをきめました。

私たちは総力をあげて一年有半にわたり新安保に反対し激しくたたかいつづけました。

また、私たちは三池の仲間を中心に、三池に加えられた組合ぶつつぶしのクビ切り合理化と対決して五百日をこえるきびしいたたかいをつづけています。

これらのたたかいの中で私たちは、みんなの力で日本人民を喜場にみちびくとした平和の敵、アイクの訪日を中止させ、岸を退陣させました。

また私たちは、三池のきようだいと固くむすんだ全国の仲間のたくましいスクラムの力で、兵糧攻め、指名解雇、ロック・アウト、分裂工作、暴力によるストやぶり警察や裁判所など、国家権力による大がかりな挑発と弾圧など、あいつぐ一連の攻撃にひるまず、そのひとつひとつを反撃し、三池に集中され、全労働者に加えられた安保体制下のクビ切り合理化に対決する戦線をひろげ、その力を強めてきました。

しかし敵は、ますますその反動ぶりを露骨にあらわして、安保の自然成立を豪語し、安保闘争にたいする大弾圧を加え、みにくい派ばつ争いをみせながらも池田を中心とする第二の岸内閣によって安保体制の地ならしを強行しようとしています。

ホッパーを守って、ストやぶりの生産再開を絶対に許さぬピケ隊に、資本家の手先となった裁判所が、憲法をふみにじり労働組合の存在そのものを無視して一方的におしつけてきた「不当仮処分」による団結破かいの「挑戦状」も、一万名の警官による大弾圧を加えるという「脅迫」もその露骨なあらわれです。

しかし、私たちはどんな大がかりな攻撃にも屈せずどんなにひどい弾圧も恐れず、平和と民主主義をたたかいとり、生活と権利を守り高める正義のたたかいによってホッパーを守り抜きます。

そして私たちは、このたたかいの中で、私たちのたたかいが独占資本と支配者の攻撃と対決して彼等の反動政策を直接粉砕し、労働者、人民の平和と繁栄をきずく歴史的な雄大なたたかいであることも自覚しこのたたかいに結集された大きな力が独占資本と反動政府をやがて追いつめ新しい社会への歴史をきづき上げるという誇りと自信をふかめました。

今日、ここに集った労働者をはじめ、各階層の力強い十万の団結と、それをささえる、全日本の労働者、人民の力こそ不当仮処分の執行と、ストやぶりの生産再開をゆるさず、権力を総動員する弾圧をハネ返し、安保闘争にたいする不当処分と、安保体制それを自体を粉砕する力です。

私たちは、この力をさらに強め総力を結集してたたかいぬきます輝く勝利と、明るい未来はたたから私たちのものです。

一九六〇年七月一七日

総評九州拠点・安保体制粉砕・不当弾圧反対・三池を守る大集会

久保・樺さんに誓って

目を奪う赤旗の波

午前十一時前後からはやくも会場入りするため、延々と列をなして人波がつづく。各組合の赤旗がそれこそ林立し、つぎつぎと広場へ吸込まれて行ったが、十万人の大集会の列は、大会開始後もしばらくつづくほどの壮大さだった。

「新安保粉砕・弾圧に屈せず進もう」「統一の力でホッパーを守ろう」と大書したアドバルンが、真夏の青空に二つ、ゆったりと揺れている。定刻十二時三十分前後になると、会場は人の波だ。

舞台を中心に、西側には三池労組主婦会・大地評・荒地評の組合員がギッシリつめかけ、正面には各県評、東側に解放同盟、全学連、民主団体がそれぞれ大場を終った会場を埋める人波と赤旗、各々の旗には炭労・全鉱・化学・教組・交通・全印総連・新聞労連・製粉・蚕紙・全電通・全司法……などなど、われわれの知る限りの各産業別の無数の組合旗がひらめき、すでに大会開始前に、ホッパー周辺を圧倒した。日本山妙法寺の僧侶さえ、ハチ巻姿の組合員と対象的に僧衣をまとって参加している。

定刻を少し遅れて十二時四十七分三鉱楽団の演奏　うたごえ行動隊指導で会員「炭掘る仲間」の大合唱で大会の幕を明けた。大会開始の鼓竹がひびきわたる。

えび谷総評次長の司会のあとをうけ小野実行委員長（福岡県評議長）が挨拶に立ち「本日のこの大集会には、日本の平和を守り独立と民主主義を願う人たちが参加しています。ホッパーは私どもの手中にあります。だが、今また官憲暴力団は久保さん樺さんを殺したのにあきたらず、われわれに襲いかかろうとしています。われわれは久保さんと樺さんの仇をこのホッパーで必ずうたなければなりません」と述べた。

議長団選出にうつり各県評代表として小野福岡県評議長、地評代表として河口大地評会長、現地指導委を代表して宮川組合長の三氏を満場一致で決定した。

議長団を代表して三池の宮川組合長はつぎのような挨拶をした。

裁判所の不当な仮処分決定によって全国の仲間たちが、一斉にホッパーに結集しました。そして十万の大衆が、いまここに集っています。この意義深い大会の議長団に選ばれたことを、心から感激しています。

私たちはホッパーを今日まで四カ月守りつづけてきました。敵も一切の力を挙げて奪かんを始めようとしています。私どもの団結の力によって、あくまでもホッパーを守りなければならないということが現時点です。

この大会で、よりよく意思の結集を図って成果を収めることをお願いいたします。

官憲には団結で対決

大集会は史上はじまっていらいという十万人の仲間の力強い結集の中で力強くすすめられていったがホッパー上からは、会社・第二組合の脱落者どもが、労働者の団結のたくましさに圧倒されながらも驚異と羨望の念にかられて、こわごわ交替でながめていた。

まず、岩井総評事務局長が挨拶に立ち

三池の同志の皆さん、また北海道から鹿児島に至る全国から馳せさんじられた全国の同志の皆さんご苦労様。われわれは、この闘争を必ず勝利させるために会社・政府・権力のもっとも痛い所を確実につかまなければならない。今日、会社の一番弱点と見られるのはホッパーです。われわれはこのホッパーを必ず守らなければならないし、また守り抜くことが出来ると確信しています。

ホッパーをめぐる緊迫した情勢の中で、組合では十六日午前十時から市民会館で組合臨時大会をひらいた。

大会では全国の仲間とともにホッパーを守り抜き、勝利へ前進することを誓い合い意志の統一をはかったが、大要つぎのような〃われわれの決意〃を確認し合った。

一、われわれは、会社の二二〇〇名首切り強行のためのロック・アウトに全面ストで闘っている。しかるに生産再開を悪質な手段によって図ろうとしている会社の態度は、最も恥ずべき行為である。われわれは堂々たる対決を会社に望むとともに、一切のスト破りを認めない。

二、裁判所は三井とグルになって仮処分命令を出した。労働者の団結、争議権をじゅうりんする憲法違反も甚だしい。一方的に労働争議を市民法のみで判断する裁判所の公正、中立を疑わざるを得ない。

三、執行吏が完全にピケ隊を排除したあとにはじめて公示札を立て執行吏保管の意味が成立する。不退去罪、封印破棄罪は成立しないし、これを理由に官憲が介入することは考えられぬ。だが、誤った裁判所の要請で警官の出動はあるかもわからぬが、圧倒的な大衆行動でわれわれのピケット権を守り平和的説得を行なう。

四、会社は最後のあがきを示している。即ち企業としての経済的要素を度外視している三井鉱山のあせりが、組合弾圧を最後的に企図していることをものがたっている。

五、われわれは暴力を否定する。暴力によって闘いを解決しようなど毛頭思っていない。むしろ会社こそ数々の暴力をふるった元凶である。

以上のような考えから本総会の意志統一として次のことを決意し、全員団結につく。

のホッパー不当仮処分に反対し、ホッパーを戦略的立場から最重要拠点の一つとして守り抜く。

㊁われわれの闘いは正々堂々、秩序ある団体行動が必要である。何びとといえど指揮者に従い、絶対に個人的行動を厳禁する。真の勇気は自己の任務を完了することである。

の闘いの中からこそ新しい発展があることを確認し、古くて新しい言葉であるが、みんな仲良く闘い抜くことを誓い合おう。

われわれの決意

臨時総会で誓い合う

岩井局長の挨拶のあと各団体からのメッセージがあり、社会党江田書記長、共産党宮本書記長、部落解放同盟福岡県連委員長、全学連からそれぞれ挨拶が贈られた。

共産党宮本書記長

三池の勇敢な闘いによって日本の労働者に多くの勇気を与えている。この闘いは三池の闘いであるとともに、日本の労働運動自由のための偉大な闘いになっている。

いま池田新内閣が出来ようとしている。敵は一握りの資本家とその番犬にすぎない。われわれの方は数百、数千万の労働者の団結がある。

われわれは安保粉砕・不当弾圧三池の労働者に集中的に加えられている資本家の攻撃に対して日本の労働者と国民は断固として闘うことによって勝利はわれらのものとなる。ともに最後の勝利まで闘かおう。

三井が相手では不足はない

部落解放同盟福岡県連委員長

第二組合は部落解放同盟を不当に誹ぼうしたビラを田川・山野にまき、われわれが追及した結果、組合長、三役が辞任することになったが、未だに引延ばしている。あまつさえ丸秘の書類を幹部間に廻し「解放同盟の脅迫には心じない」と行動している。去る十一日同盟では臨時の県委員会をひらき荒川・山崎らを問詰した結果、十九日第二組合の中で対決することになったさらに八月一日には三池で三百万同盟の代表者が集って第二組合糾弾全国大会をひらく。われわれは彼らの思い上った態度に対し、相手が三井なら相手にとって不足はない、さいごまで対決するつもりでいる。

全学連代表

私たちは安保改定に反対し岸打倒のため、東京を中心として全国の学友五万名が激しい憤りでデモに立上った。

われわれの正当な闘いに対し警官は一万名を動員し、ありとあらゆる装備を用い学友に襲いかかった。この警官の暴力は日本歴史になかったものだった。

それのみならず、ついに学友の樺さんを殺したのである。われわれの心からの怒り憎しみがさめぬうち三池で再び警官は暴虐行為の準備をしている。催涙弾は恐しいものではない前へ前へ進むことです。われわれ全学連は数も少く力も弱いが、皆さんの指導の下に、皆さんと共に全力をあげてホッパーを守る。

全労働者の闘いだ

このあと、大会に出席した社会党国会議員九名の自己紹介があり、代表して江田書記長が挨拶した。

三池の闘いは全労働者の闘いであり、この勝敗いかんは日本の労働者の使命を制するものである。会社は第二組合結成、仮処分で組合はつぶれると思っていた。だがつぶれない。それは労働者が生きて行けるかどうか基本的な闘いになっているからである。

私はこの挨拶が終ると直ちに国会に帰り、明日の首班指名が終ったら、皆さんの要求をもって池田に迫って迫って迫り抜くことを誓う。

このあと、江崎拠点共闘事務局長から闘争経過報告があり、中野佐賀県評事務局長から政府・国警長官各当局、裁判所、三井鉱山に対する抗議の提案が出され、満場一致で採択した。

デモに三池艦隊も呼応

つづいて原炭労委員長から「勝利の道は困難なイバラの道であることを確認して、勝利の日まで断固として闘い抜くことを誓う」旨の決意表明がなされ、ついで「組織の命運をかけて闘っている三池の闘いを全労働者階級の力で守り抜こう」など四項目のスローガンを万雷の拍手の中で採択し、大会宣言（別項掲載）、労働歌合唱、頑張ろう三唱で意義ある大会を終った。爆竹がとどろき大会終了を告げる。ときに午後二時三十五分。

このあと、デモ行進に移った。デモ隊に呼応して三池海上艦隊も四隻を残し二十隻が勢揃いして訪問川を遡ってくる。河岸の歓声にこたえて、爆竹を打上げ、力強い交歓をくりひろげた。

デモは十万の列をつくり、延々とつづき、沿道の拍手を浴びて警察前では、怒りの抗議デモを行って労働者の怒りと団結の力を三井の番犬どもに示した。